

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

新潟県立国際情報高等学校（新潟県）【指定校】

## <教育利用> ①「AI歌人」と短歌を詠む ～『土佐日記』『門出』に短歌を付け加える～

### 1. 授業構想 学習指導要領 スポットを当てづらかった事項

『高等学校学習指導要領』

第2言語文化 2内容〔思考力・判断力・表現力等〕

B読むこと(1)

オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。

同(2) ※(1)に示す事項に対する言語活動の例

エ 和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりすることなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする活動。

①ChatGPTを用いることで、これを深化、拡張させたい。

## 授業のねらい

学習指導要領でこれまでスポットを当てづらかった「作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め」ることのできる活動に取り組む

### 2. 授業実践 はじめに入力するプロンプト

## はじめに入力するプロンプト

『土佐日記』『門出』(短歌なし)の末尾に、本文にふさわしい短歌を創作する

# 命令文、  
# 本文、  
# 出力形式を  
記載したプロンプトを  
Google classroomで配信。  
各班コピーして使用。

ChatGPTは  
「本文を踏まえる」◎  
「語感の良い短歌を作る」△  
「音の数を揃える」△

#命令文  
あなたはAI歌人です。次の『土佐日記』冒頭の現代語訳である#本文の末尾に合う短歌を創作してください。出力した後、創作した短歌をさらに改善するために必要な質問を、入力者に対して行ってください。

#本文  
男もすると聞いている日記というものを、女（の私）も書いてみようと思って書くのである。

ある年の十二月の二十一日の午後八時ごろに、門出をする。その様子を少しばかりものに書きつける。

ある人が、国司の四、五年の任期が終わって、いつもの（国司交代の事務引き継ぎ）のことなどをすべて終えて、解由状などを受け取って、住んでいた官舎から出て、船に乗るはずの場所へ移る。あの人もこの人も、知っている人も知らない人も、見送りをする。数年家とても楽しく付き合ってきた人々は、別れがたく思っ、一日中ずっと、あれこれとしながら大騒ぎするうちに、夜が更けた。

二十二日に、（せめて）和泉の国までは旅が無事であるようにと神仏に祈願する。藤原のときざねが、船路の旅であるのに、「馬のはなむけ（送別の宴）」を聞く。自分の上位の人も、中・下位の人もみな、すっかり酔っぱらって、とても不思議なことに、（塩分がきいて腐る（あざる）はずがないのに、）塩辛い海のほとりでふざげ（あざれ）合っている。

#出力形式  
・五・七・五・七・七の定型で創作する。  
・#本文を踏まえて創作する。  
・現代仮名遣いを用いて創作する。  
・#本文は出力しない。

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

新潟県立国際情報高等学校（新潟県）【指定校】

## ＜教育利用＞ ①「AI歌人」と短歌を詠む ～『土佐日記』『門出』に短歌を付け加える～

## 2. 授業実践 活動の一コマ

☆上の句を60個、一気に作成。

“「選択」という創作形態”→

☆ChatGPT作には一定の傾向が  
生まれるも、特異なものも↓

か)の記す 思い出の舞台 門出の夜

国司去り行く 波の音に耳

心 心 心

## 活動の様子

- ・上の句を60個、一気に生成
- ☆新時代の、「選択」という創作形態
- ・「よりロマンチックな短歌に改めて」
- ・「別れの場面のイメージにふさわしい熟語を教えて」など

## 生徒の感想

## 3. 授業の振り返り 生徒の感想

自分でできない短歌っぽい表現をしっかりと、物語を理解して作っていたのですごいなと思った。そこから、自分が思う短歌にしていくのを考えるのが難しかった。

短歌を書くことは難しかったです。他の人の作品を見るとすごく良いなと思うものも多くあって勉強になりました。もっと門出という作品について理解を深めたいと思いました。

チャットGPTは色々なオシャレ語を提案してくれ、そのおかげで私も負けじと素敵な言葉を考えることができた。チャットGPTと協力して、できた一句が私自身も気に入ったので共同作業できて楽しかった。

正直言うと、まだまだ人間の方は表現力が上な気がした。

1分あたりに作れる件数はもちろんAIの方だけれど、人間の方が一句一句こだわって重い句が出来上がると思った。でも、私たち人間が思いもよらなかった表現や言葉はAIが気づかせてくれた場面も多かった。まだまだAIが完全に句を作ることはできないと思うけれど、人間とタッグを組むことによってこれからどんどんすごい作品が生まれると感じた。